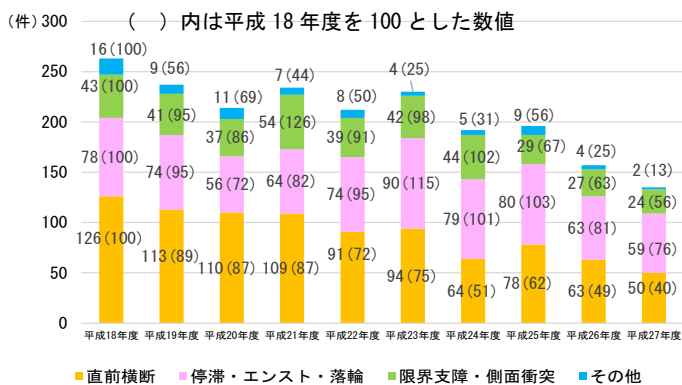


ドライバーの皆様

踏切事故はひとつではありません！

- 踏切事故の多くは、列車が通過する直前の踏切横断や自動車等が停滞・エンスト・落輪することが原因で発生しています。
- 警報機や自動遮断機がある踏切でも、踏切事故は発生しています。
- 踏切事故は、60歳以上の運転者による場合に比較的多く発生しています。
- 大型の自動車による踏切事故では、列車の乗客などからも負傷者が出る割合が高まります。



全国の踏切事故の原因の推移 (歩行者による事故を除く)

注1. 上記グラフに関する用語について

直前横断 列車等が踏切を通過する直前に自動車等が踏切に進入して、列車等と衝突したもの

停滞・エンスト・落輪 自動車等が落輪、エンスト、交通渋滞、自動車の運転操作の誤り等により、踏切道から進退が不可能となったため列車等と衝突したもの (※)

限界支障・側面衝突 自動車等が通過中の列車等の側面に衝突したものの及び自動車等が列車等と接触する限界を誤って支障し停止していたため、列車等が接触したもの (※)

自動車等 普通乗用車、小型乗用車、バス型乗用車、普通貨物車、小型貨物車・特殊車、建設機械

注2. 上記グラフは、自動車等のほかに二輪 (二輪車、原動機付自転車)、軽車両 (自転車、荷車等) が関係した踏切事故数である。

(※) 国土交通省鉄道局資料「鉄軌道輸送の安全にかかわる情報」より



※写真：運輸安全委員会公表の事故調査報告書より

踏切事故防止のために！

主な注意点

！列車はすぐに停止できないので、踏切の手前では**必ず一時停止**をして、目と耳で列車が接近していないことを確認しましょう。

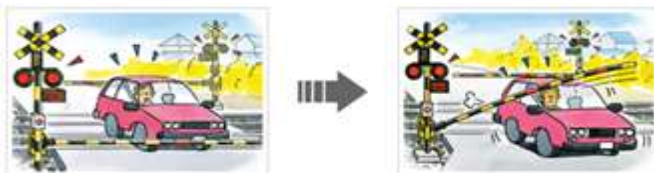
！警報機が鳴っているときや、自動遮断機が下りていたり、下り始めていたりするときは、**絶対に踏切に進入してはいけません**。

！踏切を超えた先に自分の車が止められるスペースがない時は、**絶対に踏切に進入してはいけません**。

！運転中の自動車が踏切内で動けなくなったときは、**すぐに車から降りて、踏切の近くに設置されている「非常ボタン」を押すか、自動車内の発炎筒を使って、線路脇等の安全な位置で接近している列車に自分の存在を知らせましょう。「非常ボタン」「発炎筒」が無い場合は洋服（可能であれば赤色）を振りましょう。**

！踏切通過中に前後の自動遮断機が下りて閉じ込められたときは、慌てず**自動車を低速で前進させ自動遮断機を押し**て脱出しましょう。

※自動遮断機は折れずに斜め上にあがります。



※イラスト：西日本旅客鉄道株式会社 「踏切事故防止」より

※当委員会の活動内容については、下記アドレスをご覧ください。

<http://www.mlit.go.jp/jtsb/index.html>



運輸安全委員会

Japan Transport Safety Board

〒100-8918 東京都千代田区霞が関 2-1-2 中央合同庁舎 2 号館

TEL : 03(5253)8823 e-mail : hqt-jtsb_analysis@ml.milt.go.jp